

すべての経験を糧に
陶芸の道を

真田憲成さん(48)
神奈川県・大船教会



陶工房「土歩」
norimasa.sana@gmail.com
■ 作陶展
Art Gallery OWL (横浜市中区) 9月24～29日

電動ろくろの前に座ると、日頃、笑みを絶やさない真田憲成さんの表情が一変する。真剣なまなざしを向け、両手で土を挟んで上下に伸ばしたり戻したりして土の硬さを均一にして成形に取りかかる。額と腕には玉の汗。二十分後、柄ごて、とても使った高さ三十センチほどの花瓶が形作られた。幼い頃、粘土遊びを好んだ。「話すのが苦手で、一人の世界に入り込んで夢中になるのが好きでした」と笑う。高校と専門学校で陶芸を学び、陶芸教室や陶工のもとで働いた。だが、思い通りの作品ができず、人間関係にも悩んで挫折。一時は陶器を見るのも嫌になり、その世界から離れた。転機は二〇一一年の東日本大震災の折、

横浜市にあるホテルの宴会場での仕事中に、大きな揺れを体験したこと。さらに被災地の状況を目にし、生き方を見つめ直した。「自分がしたいことをできるのは、幸せなこと。本気でやろう」と発奮したという。神奈川県内で活躍する陶工のもとで働き、十一年前に鎌倉市の実家の庭先に陶工房「土歩」を構え、独立。「自分の色を出したい」と、釉薬の調合にも工夫を凝らしてきた。緑と瑠璃の色合いが美しい花瓶やマグカップなどの作品が好評だ。陶芸教室や福祉作業所で陶芸の楽しさも伝えている。立正校成会の信仰の二代目。真田さんを幼い頃から知るサンガ(同信の仲間)から「頑張ってるね」と言われるのが、今は励みだ。「自分が未熟で、うまくいかないときもありましたが、それも知って応援してくださることがありがたい」と話す。「人に喜ばれるものを作って応えたい」。いつか海外で個展を開くのが夢だ。



*立正校成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
9月1日から上記ウェブサイトでもこの記事がご覧になれます。